

2009 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属

社会学部

学科

担当科目

質的調査法

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

仕事内容について

授業の準備や補助といったチューターの仕事については、大学院生の人達と計3名で仕事を分担して行っていました。なので仕事が毎週の負担になるということはあまりありませんでした。ただその分互いの連絡が大切になってくるので、その点に関しては意識してやってこれたと思います。

一番印象に残っている仕事では、生徒のレポートを生徒自身が発表する回でした。授業の中で提出したレポートを発表し合うということは、これまでしたことがなく準備などにも力をいれて行ってきました。

気づいたこと、感想

これまでとは反対の立ち位置で授業に参加したということで、新たに見えてくることもありました。例えば、授業中の私語や多少の遅刻は深刻には考えてはいませんでしたが、授業を行う立場からしたらしたら、とてもわかりやすく気になるものです。他にも、クラス全体が想像以上によく見えていたということも新たな発見でした。

他に、生徒の前でマイクを使って話をしたということも何度かありました。こうした、話すことを準備せずに大人数の前での発表という機会は、今まであまりなく要点をはっきりすることができないなど、なかなかうまくいきませんでした。しかしその分、回をこなすことに慣れてきたということもあったのでいい経験にもなりました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

これからチューターをやる人達には、できるだけ早い時期から行えるなら早くからやるにこしたことはないと思います。授業の履修の関係などで、チューターをやる人は院生や4年生の人が多いと思いますが、早くから参加することで得られることも多いと思うからです。

先に書いた、授業に対しての取り組み方や大勢の前での発表を経験することでその後のゼミ活動や就職活動等に関しても、役に立つことがあると思います。